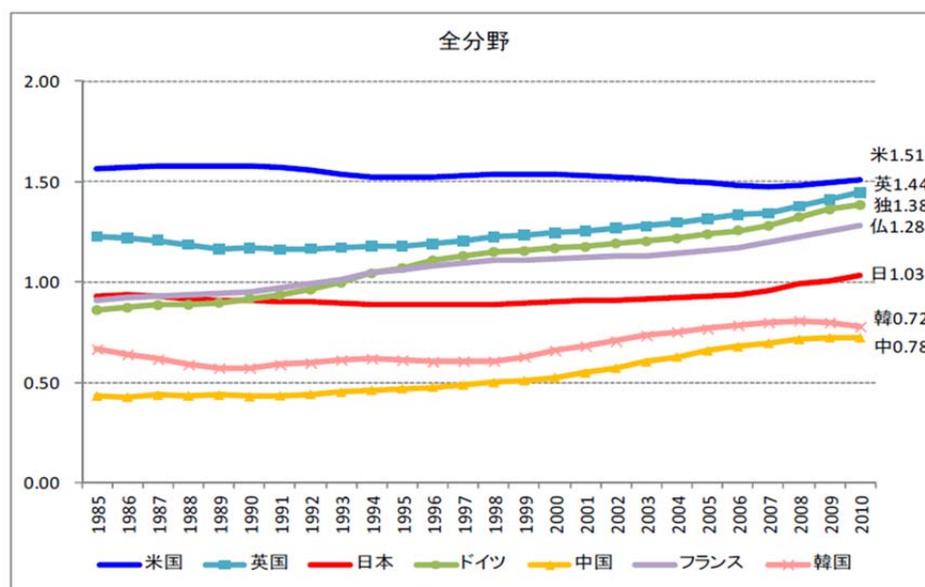


なお、前掲の図 2-45～48 を見ると、日本は 2000 年以降は論文総数と Top10%補正論文数の双方において伸び率が大きく低下しているが、論文総数の伸び率の低下に較べて Top10%補正論文数の伸び率の低下は小幅に留まっている。このような形の変化が生じているのは各国の中で日本だけである。

図 2-49 に見るように、近年日本の論文の相対被引用度は緩やかに上昇基調にあるとされる。しかし上記の現象に鑑みると、被引用度の上昇は、各国との相対的な関係において日本の論文生産全体が縮小する中で、「頂上を支える裾野」が相対的に大きく縮小したことによる結果であり、必ずしも論文全体の質が向上したことを意味しない可能性がある。

図 2-49 主要国の論文の相対被引用度の推移



(出典) 文部科学省 科学技術政策研究所 調査資料 204 「科学研究のベンチマーキング 2011」